

[別紙 2]

審査の結果の要旨

氏名 友澤 滋

本研究は大腸腫瘍の発生において重要な役割を演じていると考えられる Cyclooxygenase(COX)-2 について、その発現と大腸癌血行性転移との関係に注目し、選択的 COX-2 阻害剤の大腸癌血行性転移に及ぼす影響を検討したものである。そして、下記の結果を得ている。

1) ヒト大腸癌における COX-2 発現と臨床病理学的因子との関係について免疫組織学的手法を用いて検討した結果、COX-2 過剰発現は血行性転移による再発に有意に関係し、無再発生存に影響する独立した因子になり得ることが示された。

2) マウスの大腸癌血行性転移モデルにおいて、選択的 COX-2 阻害剤により COX-2 高発現株の大腸癌では有意に血行性転移が抑制され、その機序として大腸癌細胞の増殖抑制、アポトーシス誘導、浸潤能抑制が関与していることを示した。

本研究はこれまで大腸腫瘍においてその発生に関与していると考えられていた COX-2 が血行性転移にも関係していること、また選択的 COX-2 阻害剤が大腸癌の発生のみならず血行性転移の抑制にも有効であることを明らかにした点から、今後の大腸癌血行性転移の治療に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。